



ぽっかぽか ひよこ組



つんとした冷たい空気に、ひんやりとした風。もう季節はすっかり冬ですね。そして今年も残すところ一か月となりました。もう12月、やっと12月…。みなさまにとっては、どのような1年でしたでしょうか。

頬や手を冷たくしながらも、長久保公園や屋上園庭、時にはひよこ組のベランダを四つ這いやつかまり立ちで探索し、落ち葉や石を拾って観察したり、歩けるようになった子は斜面の上り下りをしたりと、各々気になるものに目を向けながら活発に過ごす子どもたちの姿に、この1年での成長を感じます。



ひよこ組で生活していく中で、一緒に過ごす友達の存在に気づき、気になって顔を覗き込んだり手を伸ばして触れてみたりしていた子ども達。今では、友達への興味も以前より一層増し、顔を見合わせて笑ったり一緒に声を出したり、大人が拍手をしたのを見て友達へ拍手をしたりすることも増えてきました。また、食事や戸外遊びでは1対2を少しずつ始めていることもあり、友達が来ているか振り返って気にかけてたりと、関わりの中で微笑ましい姿が多く見られます。

その一方で、友達が持っているものに興味を示して手を伸ばし、つかんで引っ張り合いになったり、持っているものを友達に取られそうになって嫌がり、服を引っ張ったり、押したりといった行動も出始めています。

『自分の』『友だちの』と、自他の区別はこれからの発達の過程で学んでいきますが、今は「モノ(玩具や人、場所)」に目がいき、「モノ」が欲しくて手を伸ばす→取られた側は「モノ」を取り返そうとする、という状況がうまれます。

こういった状況は特にトラブルになりやすく、ひっかかれたり、噛まれたりすることがあります。

子どもの気持ちを大切にしながら対人関係をうまく繋げていくために、ひよこ組では以下のことを大切にしています。

1. 未然に防げるよう、トラブルになりそうな場面では子どもの側について止められるようにしています。
2. 個々の遊びが重なり合わないよう、広いスペースを確保したり、同じおもちゃを複数用意したり、1つしかないおもちゃは出し方を工夫するようにしています。
3. 子どもの気持ちを代弁し、子どもが自分から「言葉で表そう」とする気持ちを育てる関わりを意識しています。
4. 子ども同士のやりとりでは、大人が中に入り、一人一人の気持ちを受け止めながら代弁すると共に、言葉や仕草での気持ちの伝え方を、大人が手本を見せることで知らせています。

トラブルがあった際には、きちんとその状況をお伝えしていきますので、ご心配な事やご相談などありましたら、担任へお気軽にお声がけください!!

